

# 音楽と私

東京コモド室内アンサンブル 鈴木治彦



私は中学一年三学期からクラスメートに誘われてブラスバンド部に入りました。楽器は音楽の先生が、『水泳はできるか』、『歯並びを見せて』という質問から『クラリネットをやりなさい』と決められました。

私が音楽に興味を持ち始めたのは、小学高学年の頃です。授業で縦笛を学び、家ではテレビから流れる曲を良く吹いていました。その感覚で最初に、クラリネットを手にして吹いたら、音が全く出ないのです。なぜなぜと考えながら繰り返し、そして試行錯誤のうえ思い切り吹いたら、やっと音が出ました。こんなにも思い切り吹かないと音が出ないのだと感じました。

中学のブラスバンドでは、マーチ等の練習でクラリネットは自己流でやっていました。世間ではステレオがブームになっており、両親も私がクラリネットを吹いているのを見て、家庭にステレオを入れてくれました。一緒に買ってくれたレコードが、カラヤン&ベルリンフィルの「新世界」と『北村英治&クラリネット』でした。

「四楽章のクラSOLO」と『小さな花』は印象に残っています。この頃からが私のクラリネット人生の始まりです。

その後、学生オケ、社会人オケでクラリネットを吹いてきましたが、中学時代の口回りの筋肉も確立せず、無理な吹き方を矯正するのに苦労しました。また、遅くから始めたこともあり、リズム、テンポ感覚が苦手で、後打ち、シンコペ、三拍子にはちょっとしたトラウマがあります。

さて、三十歳後半になり、会社の中でオケを作りました。この時にオーボエが不足しましたので、オーボエをやることにしました。オーボエとクラリネットは楽器の構造、リード、倍音構成、指使い、息奏法等、全く違います。オーボエは、低音は出にくい・高音は音が細くなる・胸の支えがある・息が余る等、苦しくなって、汗をかいて吹きこなせません。

また、リードも自作していますので、家での練習ではリードの調子を調整していることが大半です。既にオーボエ人生も長いですが、二十年以上、努力・挫折の繰り返しでした。今ではやっと呼吸法とリード作り等も確立してきたので、吹けるようになりました。

定年後の人生はクラとオーボエを両立して出来るようにしたいと思い、クラを再開しています。クラでは、クラシックだけではなく、スイングも出来るように少し学びました。オーボエとクラは生涯学習です。

なぜ、こんなにも長く続けているのでしょうか。一つはなかなか上手くできなかったけどあきらめなかったこと、もう一つは、出した音は瞬時に消えていきますが、仲間と響きあった音は永遠に続くということです。この響き方はめったになく、表現できませんがこれを追い求めています。

今では、悠々自適に暮らしていますが、音楽は生き甲斐になっています。そして聞いてくれたお客様が感動してくれるとさらに嬉しいです。